新潟県立阿賀黎明高等学校　令和８年度第２回学校運営協議会　議事録

１　日時

令和８年 10 月 19 日（月）10 時～12 時

２　会場

阿賀黎明高等学校　多目的ホール

３　参加者

委員７名
県教育委員会１名
（オブザーバー参加）
阿賀町教育委員会学校教育課職員１名
阿賀町営塾「黎明学舎」講師３名
阿賀黎明探究パートナーズ関係者１名
（事務局）
高校魅力化コーディネーター１名
阿賀黎明高等学校教職員２名
計 16 名

４　次第及び概要

(1) 開会　校長挨拶（萱森校長）

日頃から本校の教育活動に御理解、御支援いただき、また、本日御多用の折、御都合をつけてお集まりいただいたことに感謝する。本校では、10 月 24 日に黎明祭（文化祭）を控え、生徒たちが協力し合って準備を進めているところである。また、ちょうど本日から、教員の業務を支援する「業務支援スタッフ（スクール・サポート・スタッフ）」が新たに勤務することとなった。この配置により、学校の魅力をさらに高めるともに、教員の働き方改革をより一層推進したいと考えている。本日も建設的で活発な意見交換となることを期待し、お願いする。

(2) 会長挨拶（遠藤会長）

昨日（10 月 18 日）、阿賀町内で「新潟県・阿賀町総合防災訓練」が行われ、阿賀黎明高校の第一体育館、多目的ホールも会場になり、多くの町民や関係機関の方々が集まった。学校の教育活動以外であっても、今回のような校舎の活用の機会があると、地域の方にとって高校が身近になり、教育活動を理解してもらえるきっかけができると感じたところである。

本日は、今年度半年経った中での学校の現状や、来年度の生徒募集に向けた取組の状況等を共有して、今後のさらなる阿賀黎明高校の発展につながるよう、活発に意見等を出し合い、議論を進めたい。

(3) 阿賀黎明高等学校の状況等

① 阿賀黎明高等学校の現状と課題について（萱森校長）

○ 「高校魅力化評価システム」生徒アンケート令和８年度第１回の結果について
結果を参考にしながら、今後の教育活動に取り組んでいく。

○ 「地域と学校の連携・協働推進研修会」（７月 28 日開催、県教育庁生涯学習推進課主催）における取組発表について
本校の取組等についての質問や賞賛が数多くあり、講師の志々田まなみ様（国立政策研究所）からもお褒めの言葉をいただいた。

○ 「学校と保護者・地域住民等とのより良い関係構築に向けた取組について（お知らせ)」（県教育庁高等学校教育課長）に係るお願い

○ （補足）生徒の具体的な状況について（長谷川教頭）
年度初めからこれまで、生徒の在籍異動はなく、年度当初と同じ人数で学校生活を送っている。10 月 15 日に阿賀津川中学校の３年生に向けて実施した学校説明会において、本校３年生（阿賀津川中学校の卒業生）の代表４名が、本校の魅力や自分自身のこれまでの取組、中学生に伝えたい思い等を堂々と話してくれた。生徒募集に向けてのよい機会となった。

② 令和８年度の地域と連携した教育活動の進捗について（黎明学舎　渡邉講師）

ア 総合的な探究の時間（阿賀町さいこうプロジェクト）（主な内容）

【１学年】これまでに「ちょこプロ」（プロジェクトの練習)、「福祉体験」、「夏休みアクション」、「ミッション型職場体験」を実施した。今後は、プロジェクトの実施に向けたテーマ設定等を行っていく。

【２年生】引き続き、プロジェクトの企画・実践を行っている。今後は、黎明祭及び阿賀町こども未来フォーラム（12 月８日）において、進捗状況等の発表を予定している。

イ 学校設定教科「地域学」（主な内容）

【２年生】地域学Ａ：「阿賀町の農林業の課題解決」をテーマとして、課題解決につながるアクションを２年間かけて実施する。１学期はフィールドワークを通して地域の資源や課題を知る活動を行った。現在は、チームに分かれて、システム思考を使った課題分析や解決策の発案等を行っている。

【３年生】地域学Ｂ：「阿賀黎明高校の入学者を増やすには？」をテーマとして、黎明祭に向けてプロジェクトを進めてきた。今後は、２年間のまとめを行うとともに、高校生として、阿賀津川中学校１年生のインタビューやまとめ作成の活動に協力する。

ウ フードデザイン（家庭科）

【２年生】郷土料理のアレンジレシピを考案し、「ご当地タニタごはんコンテスト」（株式会社タニタ主催）に応募した。今後は、黎明祭での展示発表とともに、清川高原保養センターにおいて、考案したレシピを利用して調理するお弁当の販売実習（11 月 19 日）を予定している。

③　令和９年度の生徒募集に向けた取組等について（西田コーディネーター）

○　各取組の参加者数等　〔　　〕内は令和８年度募集の実績数

・「まなび体験会」（７月 11 日、８月１日、８月 22 日、10 月 24 日）
参加（申込*）者数 27 名〔21 名〕（重複は含まない）
学年別では、中学３年生 18 名、２年生８名、１年生１名
＊ 10 月 24 日分は未実施のため、申込者数を計上

・「まなび体験会」以外の県外からの現地見学等　受入数３名

・「東京対面説明会」（６月 20・21 日、７月 25・26 日）
ブースでの対応者数 73 件〔26 件〕
※　昨年度は６月のみの１回参加、今年度は６、７月の２回参加

・オンライン高校別説明会（５月 23 日、９月 12 日）
参加者数のべ 22 名〔64 名〕
※　昨年度実施した、月１回平日のオンライン説明会は実施していない

○　参加者の傾向

・「まなび体験会」への県外（特に東京都）からの参加者、中学２年生の参加者の増加

・オンライン説明会に参加せず、まず対面説明会に参加して高校を探す中学生の増加

○　コーディネーターの所感

・入寮希望者の確保のためには、対面説明会と地域みらい留学の高校紹介ホームページを充実させることが重要であると感じている。

・オンライン説明会の参加者は減少したが、５月のオンライン高校別説明会から「まなび体験会」の参加につながるケースは多く、今後も大切にしていきたい。

・他の地域みらい留学参画校と比べると、寮のスタッフや食事提供の体制に対する安心感や期待が大きいようである。

(4) 質疑応答・意見交換

○（遠藤会長・意見）阿賀津川中学校３年生に向けて、生徒が学校の魅力等を話したという報告を聞いて非常に嬉しく感じた。さらに、そこで話した内容を聞くと、学校運営協議会や阿賀黎明高校魅力化プロジェクトが目指していることを生徒も理解してくれていると感じる。今後もこのように成果を共有できたらよい。

○（遠藤会長・質問）県内から「まなび体験会」に参加している中学生の市町村の内訳はどのような状況か。

→（西田コーディネーター）具体的な数字の手持ち資料はないが、新潟市が大半を占めている。

○（遠藤会長・意見）阿賀町内の中学生は減少傾向にあり、地域みらい留学生の受入数も制限がある。磐越西線沿線の自宅から通学できる入学者の獲得に向けて、募集活動ができたらよいと考える。

○（猪股副会長・質問）「高校魅力化評価システム」生徒アンケートの結果について、質問事項「この学校に入ってよかったと思う」の肯定的な回答率が昨年度より上昇したことは大変喜ばしい。一方で、質問事項「自分の将来について明るい希望を持っている」の肯定的な回答率が降下しているが、この要因がわかれば教えてほしい。生徒が自己肯定感を高められるよう、地域としても学校に協力したい。

→（萱森校長）このアンケートとは別に行った調査の結果も参考に分析すると、本校の生徒は、進路決定に不安を持っている者が多い傾向にある。生徒が希望を持って進路決定ができるよう、引き続き教職員が協力して指導を進めたいと考えている。

○（猪股副会長・質問）全国的に地域みらい留学の参画校が増加している中で、「まなび体験会」等の参加者を増やしていることは素晴らしい。学校運営協議会として、「まなび体験会」の運営等で生徒募集に協力できることがあれば教えてほしい。

→（西田コーディネーター）今年度は９月に「まなび体験会」を開催しなかったため、個別の現地見学の希望が相次いだ。今後、個別の現地見学の受入体制について、フローを作成しておきたいと思っている。生徒募集に協力していただけるとしたら、例えば、「まなび体験会」に参加した生徒や保護者に向けたイベント（バーベキューなど）の企画ができたら、さらに阿賀町の魅力や地域からの温かい応援があることを知って帰ってもらえるのではないかと考えている。

○（齋藤委員・意見）「まなび体験会」に参加した生徒や保護者に向けたイベントの企画については、他の地域みらい留学参画校ではあまり行われていない取組であると思うので、ぜひ実施できたらよい。

○（渡邊委員（阿賀津川中学校長）・質問）10 月 15 日に訪問してくれた４名の生徒は、落ち着きがあって自分の考えを持って話ができており、卒業生ということで大変誇らしかった。学校の特色化に向けた活動に参加することで、生徒がより強く地元愛を育くむことができると感じたところである。「高校魅力化評価システム」生徒アンケートの結果の質問事項「相手の意見を丁寧に聞くことができる」の肯定的な回答率が上昇しているが、学校として何か取組をしているのか。

→（長谷川教頭）相手の意見を丁寧に聞く力の育成を目標とした取組を特別に行っているということはないが、学習活動のほとんどが少人数であることから、授業中に教員や級友の話を聞いてそれに答えたり、黎明学舎の協力により総合的な探究の時間などで地域の方から１対１で話を聞ける機会をもらえたりすることで、人の話をしっかり聞こうという姿勢を自然と身に付けられているのではないかと思う。

○（清田委員・質問）総合的な探究の時間や地域学などについての報告を聞くと、生徒がやってみたいことを考え、実践し、まとめて発表するという流れがシステム化されてきており、これまでの取組の成果が出てきているのではないかと感じる。指導者側で感じている手応えと課題を教えてほしい。

→（黎明学舎　渡邉講師）生徒が、やってみたいことについて深く考える時間をある程度確保できているという感覚がある。一方で、プロジェクトの初期の段階からもっと地域の方からの力を借りて、一緒に取り組めるようになると、生徒の社会性の評価にもつながるのではないかと思っている。現在は、協力の依頼先が、コーディネーターが知っている人脈のみになりがちである。今年度の２年生の地域学Ａでは、阿賀町の農業の活性化に向けたプロジェクトを進めており、３年生の地域学Ｂでも継続予定であることから、今後も農業関係を中心とした新たな協力者を見つけて連携したいと思っている。

○（清田委員・意見）阿賀黎明パートナーズの発足当初は、地域が学校に入りすぎたために意見が衝突して上手くいかないことも多く、その後、距離を置くようになってしまった。今後はバランスをとって連携ができるとよい。

○（齋藤委員・意見）人材バンクを作り、活用するシステムを構築できるとよいのではないか。

○（阿賀黎明探究パートナーズ　清野監事・質問）中学校の学校説明会に生徒を参加させるというアイデアは、中学校、高校のどちらが提案したのか。「高校魅力化評価システム」生徒アンケートの結果の質問事項「この学校に入ってよかったと思う」の肯定的な回答率が昨年度より上昇していることも、中学生に伝えられたらよい。

→（長谷川教頭）まず、中学校から学校説明会として授業の１コマ 50 分間をくださるという話があった。本校としては、せっかく機会をいただけたので、教員からの説明だけでなく、生徒（卒業生）から話をすることで、中学生に学校のことをより理解してもらえると考えた。生徒に依頼したところ、快く引き受けてくれて、当日は思いを込めて語ってくれた。

○（阿賀黎明探究パートナーズ　清野監事・質問）地域みらい留学生の入寮希望者はどのくらいであると見込んでいるか。

→（西田コーディネーター）「まなび体験会」の参加者数を踏まえると、定員以上の人数の希望があるのではないかと思っている。

(5) 指導・助言（山上指導主事）

本協議会には、協議の一層の充実、実効性が求められている。今年９月に示された、中央教育審議会の教育課程企画特別部会における論点整理の中では、学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）において、子供の社会参画を促す方策を検討すべきとされており、子供の社会参画や意見表明の推進を議題としたり、子供自身が学校運営協議会に参画したりすることが取組例として挙げられている。このことも参考にしながら、引き続き取組を進めてもらいたい。

(6) 熟議（進行：西田コーディネーター）

テーマ「阿賀黎明高校魅力化プロジェクト 10 年で変わったこと、始まったこと」

①　「阿賀黎明高校魅力化プロジェクト　紹介冊子企画書」についての説明（黎明学舎　大井講師）

② これまでの 10 年の歴史を言語化し、今後のビジョンを描くための材料となる情報や意見などのグループ協議

→（主な意見等）

・阿賀黎明高校の取組について、町民が中身までわかっていない現状がある。「学校」ということで、見えない、理解できない部分があることも事実としてある。より積極的に情報発信することで、知ってもらえるようになるとよい。

・阿賀黎明探究パートナーズは、令和２年度の発足当初から比べると、現在は関わりが少なくなってしまっている。メンバーはそれぞれの仕事や地域での役割もあるが、バランスをとりながら学校に協力していけたらよい。

・地域みらい留学生を受け入れるようになり、生徒、保護者の学校に対する見方が変わってきている。

・生徒の自主性や発言、意識、やる気などが上向きに変わってきている。

・プロジェクト発足当初は、学校と黎明学舎との間で生徒の進路指導について意見が対立することも多かったが、黎明学舎が授業に協力するようになって、上手く連携を図ることができるようになってきている。

(7) 閉会　副会長挨拶（猪俣副会長）

今回の熟議は、これまでの取組を振り返ることができてよい機会になった。

阿賀町の総合計画の審議委員を務めているが、その審議委員会の中でも、阿賀黎明高校における地域みらい留学受入れの認識は高まってきている。しかしながら、まだ町内への情報発信には課題がある。町内中学校からの入学者が減少していることからも、広報を強化することは必須である。

今後も、本協議会で情報を共有し、他校における好事例も参考にしながら、引き続き学校と一緒に取り組んでいきたい。



